



にんにく	葉枯病、黄斑病、白斑葉枯病、さび病					
にんじん	黒葉枯病					本剤：5回以内 TPN：5回以内(種子への吹き付け処理は1回以内)
ばれいしょ	疫病 夏疫病	500~1,000倍				5回以内
うり類(漬物用、ただし、ゆうがおを除く)	炭そ病、うどんこ病、べと病、つる枯病					4回以内
にがうり	炭そ病、うどんこ病、べと病、斑点病、つる枯病	1,000倍				5回以内
ゆうがお	炭そ病、うどんこ病、べと病					3回以内
かぼちゃ	べと病、白斑病、うどんこ病					
ズッキーニ	うどんこ病					
すいか	炭そ病	700倍				
	つる枯病	700~1,000倍				
メロン	うどんこ病	700倍				5回以内
	べと病	700~1,000倍				
	つる枯病					
セルリー	斑点病、萎縮炭そ病					2回以内
やまのいも(むかご)						
やまのいも	炭そ病、葉渋病、つる枯病					6回以内
もりあざみ	ステムフィリウム葉枯症					3回以内
アスパラガス	茎枯病、斑点病、褐斑病、疫病		100~400L/10a (100~400ml/m <sup>2</sup> )	収穫前日まで		4回以内
みつば	べと病					
うど	黒斑病	1,000倍	100~300L/10a (100~300ml/m <sup>2</sup> )	根株養成期 (但し、収穫75日前まで)		3回以内
				根株養成期 (但し、収穫200日前まで)		
ふき	灰色かび病			収穫21日前まで		2回以内
食用ぎく	褐斑病			収穫30日前まで		4回以内
食用ゆり	葉枯病			収穫14日前まで		6回以内
てんさい	褐斑病					
りんご	斑点落葉病、モニリア病、黒星病					3回以内
なし	黒斑病、黒星病			収穫45日前まで		本剤：3回以内 TPN：3回以内(休眠期は1回以内)
もも	灰星病、黒星病					6回以内
ネクタリン	灰星病、黒星病			収穫前日まで		2回以内
いちじく	疫病、黒葉枯病、黒かび病	2,000倍				5回以内
パパイヤ	炭そ病	1,000倍				
キウイフルーツ	果実軟腐病	500~1,000倍				7回以内
	すす斑病	500倍				
パッションフルーツ	円斑病、疫病		200~700L/10a (200~700ml/m <sup>2</sup> )	収穫60日前まで		
				収穫14日前まで		
かりん	黒点病、ごま色斑点病、白カビ斑点病	1,000倍		収穫45日前まで		3回以内
マルメロ	ごま色斑点病			収穫30日前まで		4回以内
みしまさいこ	炭そ病	800倍	100~300L/10a (100~300ml/m <sup>2</sup> )	収穫30日前まで		3回以内
しゃくやく(薬用)	うどんこ病	1,000倍		収穫45日前まで		
つつじ類	褐斑病	1,000倍	200~700L/10a (200~700ml/m <sup>2</sup> )	—		6回以内
茶	もち病、炭そ病、輪斑病、新梢枯死症(輪斑病菌による)	700~1,000倍				
	網もち病、褐色円星病	1,000倍	200~400L/10a (200~400ml/m <sup>2</sup> )	摘採10日前まで		1回
	黒葉腐病、灰色かび病	700倍				
たばこ	うどんこ病	700~1,000倍	25~150L/10a (25~150ml/m <sup>2</sup> )	—		2回以内

●土壌灌注として使用する場合

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数※	使用方法
ブロッコリー	根こぶ病	1,000倍	3L/m <sup>2</sup>	定植時	本剤：1回 TPN：3回以内(土壌灌注は1回以内、散布は2回以内)	土壌灌注
レタス	ビッグベイン病		1.5~3L/m <sup>2</sup>	収穫42日前まで	本剤：2回以内 TPN：5回以内(土壌灌注は2回以内、散布は3回以内)	
ねぎ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500倍	0.5L/m <sup>2</sup>	出芽揃い後 (出芽3日後から10日後まで)	本剤：1回 TPN：4回以内(土壌灌注は1回以内、散布は3回以内)	
わけぎ					本剤：1回 TPN：3回以内(土壌灌注は1回以内、散布は2回以内)	
きゅうり	1,000倍	3L/m <sup>2</sup>	は種時又は活着後 但し、定植14日後まで	本剤：2回以内 TPN：10回以内(土壌灌注は2回以内、散布及びくん煙及びエアゾル剤の噴射は合計8回以内)		
トマト				本剤：4回以内 TPN：6回以内(土壌灌注は2回以内、散布及びくん煙及びエアゾル剤の噴射は合計4回以内)		
みずな	立枯病			は種時	1回	
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (リゾプス菌)	500~1,000倍	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り500ml	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	2回以内	
		1,000~2,000倍	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り1L			

③種子消毒として使う場合

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数※	使用方法
にんじん	黒葉枯病	1 2 倍	乾燥種子 1 kg 当り 60ml	は種前	本剤：1 回 TPN：5 回以内(種子への吹き付け処理は1 回以内)	吹き付け処理（種子消毒機使用）

【効果・薬害等の注意】

- ①使用直前に、容器をよく振ってください。
- ②石灰硫黄合剤との混用はさけてください。
- ③花き類に使用する場合、花卉に薬液が付着しますと漂白・退色などによる斑点を生じる場合がありますので、着色期以降の散布はさけてください。
- ④花き類に使用する場合、薬液による汚れが生じるおそれがありますので、収穫間際の散布は避けてください。
- ⑤しそに使用する場合、薬液による汚れが生じるおそれがありますので、葉にかからないように株元に散布してください。
- ⑥レタスに使用する場合、生育遅延のおそれがあるので高温期の灌注は避けてください。
- ⑦芝に使用する場合、夏期高温時の散布、特に暖地では葉に薬害（黄変または褐変）を生ずることがありますので注意してください。
- ⑧りんごに使用する場合、次の事項に注意してください。
  - ゴールドの後代品種（つがる、世界一、ジョナゴールド等）には、葉に薬害を生じますので使用しないでください。
  - 本剤の散布により、サビ果が多くなるおそれがありますので、落花後20日間は散布しないでください。
- ⑨なしに使用する場合、二十世紀以外の品種には葉に薬害を生じますので使用しないでください。また、二十世紀であっても7月以前に使用すると葉に薬害を生じますので、7月以降に使用してください。
- ⑩有袋栽培のものの場合、除袋直後の散布は果面に日焼け症状が出るおそれがありますのでさけてください。
- ⑪いちじくに使用する場合、果実に薬害が発生するおそれがありますので、果実肥大期の初期あるいは夏期高温時の散布はさけてください。
- ⑫ねぎ及びわけぎに土壌灌注として使う場合、は種時から出芽直後の処理においては生育抑制のおそれがありますので注意してください。
- ⑬ストレプトマイシン剤及びホセチル剤と混用する場合、必ず本剤を先に所定の濃度に希釈してからそれぞれの剤を加えてください。
- ⑭本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所または販売店等と相談することが望ましいです。
- ⑮稲（箱育苗）に使用する場合、次の事項に注意してください。
  - 薬害のおそれがありますのでヒドロキシイソキサゾール剤（但し、ヒドロキシイソキサゾール・メタラキシル剤は除く）との同時施用及び近接処理はさけてください。
  - 緑化期に使用する場合、発病後の処理では効果が劣ることがありますので注意してください。
  - 育苗箱から希釈液が漏出しないように注意してください。
- ⑯適用作物群に属する作物またはその新品種にはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病虫害防除所または販売店等と相談することが望ましいです。

【安全使用上の注意】 マスク着用 防除衣着用 カブレ注意

- ①誤飲のないように注意してください。
- ②本剤は眼に対して刺激性がありますので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- ③本剤は皮ふに対して刺激性がありますので、皮ふに付着しないよう注意してください。付着した場合は直ちに石けんで、よく洗い落としてください。
- ④夏期高温時の使用を避けてください。
- ⑤かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物との接触を避けてください。
- ⑥散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗顔・うがいをするとともに衣服を交換してください。作業時に着用していた衣服等は他のものと分けて洗濯してください。
- ⑦街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲や立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- ⑧蚕に対して影響がありますので、周辺の桑葉にかからないようにしてください。

魚毒性： 魚介類注意

- ①水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼす恐れがありますので、河川、湖沼及び海域等に飛散・流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。
- ②水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないでください。
- ③移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。
- ④水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがありますので、河川、養殖池等に飛散・流入しないよう注意して使用してください。
- ⑤使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ってください。散布器具及び容器の洗浄水は河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。